

科目名 リーダー論Ⅰ

担当教員	服部 文夫				
科目の種類	一般	単位区分	必須	単位数	2 単位
授業方法	講義・演習	開講学期	通年	学年	1 年
学科・コース	情報社会学科				

授業概要

野球選手の活動事例をもとにして、組織の中での選手の成長の基本的な心構えを理解する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置付け

学生生活、野球部内での活動、就職後の組織の中で心掛ける事項の基礎について学習する。
前提となる授業はない。3 年間を通じて、継続的に学習する。

授業項目

次の各項目について、事例を交えながら学習を行う。

- 「第1章 意識改革で組織は変わる
- 「第2章 管理、式は経験がベースとなる」
- 「第3章 指揮官の最初の仕事は戦力分析にある」
- 「第4章 才能は学から生まれる」
- 「第5章 中心なき組織は機能しない。」
- 「第6章 組織はリーダーの力量以上には伸びない。」
- 「第7章 指揮官の重要な仕事は人づくりである。」
- 「第8章 人間学のない者に指導者の資格なし」

授業の進め方

授業時間内には講義と演習を交互に行う。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

選手の育成とチームの改革が必要なことを理解し、

成績評価の基準および評価方法

定期考査の点数（80%）、出席率および授業態度（20%）として評価

教科書

講義資料を配布し、その資料に沿って授業を進める。

参考書

野村ノート（野村克也）

実務経験

備考

特になし

科目名 リーダー論Ⅱ

担当教員	服部 文夫				
科目の種類	一般	単位区分	必須	単位数	2 単位
授業方法	講義・演習	開講学期	通年	学年	2 年
学科・コース	情報社会学科				

授業概要

野球選手の活動事例をもとにして、組織の中での選手の成長の実践的な成長方法について学ぶ。

カリキュラムにおけるこの授業の位置付け

学生生活、野球部内での活動、就職先での成長の方法について学習する。
前提となる授業はない。3 年間を通じて、継続的に学習する。

授業項目

次の各項目について、事例を交えながら学習を行う。

- 「第9章 意識改革で組織は変わる
- 「第10章 管理、式は経験がベースとなる」
- 「第11章 指揮官の最初の仕事は戦力分析にある」
- 「第12章 才能は学から生まれる」
- 「第13章 中心なき組織は機能しない。」
- 「第14章 組織はリーダーの力量以上には伸びない。」
- 「第15章 指揮官の重要な仕事は人づくりである。」
- 「第16章 人間学のない者に指導者の資格なし」

授業の進め方

授業時間内には講義と演習を交互に行う。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

選手の育成とチームの改革が必要なことを理解し、

成績評価の基準および評価方法

定期考査の点数（80%）、出席率および授業態度（20%）として評価

教科書

講義資料を配布し、その資料に沿って授業を進める。

参考書

野村ノート（野村克也）

実務経験

備考

特になし

科目名 リーダー論Ⅲ

担当教員	服部 文夫				
科目の種類	一般	単位区分	必須	単位数	1 単位
授業方法	講義・演習	開講学期	前期	学年	3 年
学科・コース	情報社会学科				

授業概要

野球選手の活動事例をもとにして、組織の中での選手の成長の実践的な成長方法について学ぶ。

カリキュラムにおけるこの授業の位置付け

学生生活、野球部内での活動、就職先での成長の方法について学習する。
前提となる授業はない。3 年間を通じて、継続的に学習する。

授業項目

次の各項目について、事例を交えながら学習を行う。

- 「第17章 意識改革で組織は変わる
- 「第18章 管理、式は経験がベースとなる」
- 「第19章 指揮官の最初の仕事は戦力分析にある」
- 「第20章 才能は学から生まれる」
- 「第21章 中心なき組織は機能しない。」
- 「第22章 組織はリーダーの力量以上には伸びない。」
- 「第23章 指揮官の重要な仕事は人づくりである。」
- 「第24章 人間学のない者に指導者の資格なし」

授業の進め方

授業時間内には講義と演習を交互に行う。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

選手の育成とチームの改革が必要なことを理解し、

成績評価の基準および評価方法

定期考査の点数（80%）、出席率および授業態度（20%）として評価

教科書

講義資料を配布し、その資料に沿って授業を進める。

参考書

野村ノート（野村克也）

実務経験

備考

特になし

科目名 スポーツ戦術論 I

担当教員	服部 文夫				
科目の種類	一般	単位区分	必須	単位数	2 単位
授業方法	講義・演習	開講学期	通年	学年	1 年
学科・コース	情報社会学科				

授業概要

硬式野球部の活動（公式戦、練習）を通して、各選手の練習などをビデオカメラで撮影を行い、その映像を題材として授業の中で、解析・解説・指摘を行い、練習に反映する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置付け

野球部のすべての活動において、動画をはじめとした記録を取る。その記録を題材として授業に置いて解説・指摘を行う。

授業項目

野球部の活動（公式戦、練習）をもとにして、その試合中の活動について解析・指摘を行う。

授業の進め方

授業時間内には講義と演習を交互に行う。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

選手の育成とチームの改革が必要なことを理解し、

成績評価の基準および評価方法

定期考査の点数（80%）、出席率および授業態度（20%）として評価

教科書

講義資料を配布し、その資料に沿って授業を進める。

参考書

野村ノート（野村克也）

実務経験

備考

特になし

科目名 スポーツ戦術論Ⅱ

担当教員	服部 文夫				
科目の種類	一般	単位区分	必須	単位数	2 単位
授業方法	講義・演習	開講学期	通年	学年	2 年
学科・コース	情報社会学科				

授業概要

硬式野球部の活動（公式戦、練習）を通して、各選手の練習などをビデオカメラで撮影を行い、その映像を題材として授業の中で、解析・解説・指摘を行い、練習に反映する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置付け

野球部のすべての活動において、動画をはじめとした記録を取る。その記録を題材として授業に置いて解説・指摘を行う。

授業項目

野球部の活動（公式戦、練習）をもとにして、その試合中の活動について解析・指摘を行う。

授業の進め方

授業時間内には講義と演習を交互に行う。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

選手の育成とチームの改革が必要なことを理解し、

成績評価の基準および評価方法

定期考査の点数（80%）、出席率および授業態度（20%）として評価

教科書

講義資料を配布し、その資料に沿って授業を進める。

参考書

野村ノート（野村克也）

実務経験

備考

特になし

科目名 スポーツ戦術論Ⅲ

担当教員	服部 文夫				
科目の種類	一般	単位区分	必須	単位数	1 単位
授業方法	講義・演習	開講学期	前期	学年	3 年
学科・コース	情報社会学科				

授業概要

硬式野球部の活動（公式戦、練習）を通して、各選手の練習などをビデオカメラで撮影を行い、その映像を題材として授業の中で、解析・解説・指摘を行い、練習に反映する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置付け

野球部のすべての活動において、動画をはじめとした記録を取る。その記録を題材として授業に置いて解説・指摘を行う。

授業項目

野球部の活動（公式戦、練習）をもとにして、その試合中の活動について解析・指摘を行う。

授業の進め方

授業時間内には講義と演習を交互に行う。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

選手の育成とチームの改革が必要なことを理解し、

成績評価の基準および評価方法

定期考査の点数（80%）、出席率および授業態度（20%）として評価

教科書

講義資料を配布し、その資料に沿って授業を進める。

参考書

野村ノート（野村克也）

実務経験

備考

特になし

科目名：スポーツ教育基礎演習 I

担当教員	林 亮介				
科目の種類	一般	単位区分	選択	単位数	10 単位
授業方法	実験・実習	開講学期	通年	学年	1 年
学科・コース	情報社会学科				

授業概要

本授業では、社会人野球を通じて技能を向上とともに、チームプレイやフォーメーション、ルールや戦術に関する知識と理解を深め、社会人として必要な、「挨拶」、「マナー」をグラウンドでの人活動を通じて人間教育を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置付け

入学後の社会人野球を通じて技術を向上させる基礎段階に当たる。

授業項目 (10 単位＝160 回分・320 時間)

- ・ オリエンテーション 第 1 回～第 6 回：12 時間
「挨拶」・「マナー」
- ・ 運動の基本動作の理解 第 7 回～第 40 回：68 時間
- ・ 野球の技術構造の理解 第 41 回～第 80 回：80 時間
- ・ 練習法の理解と実装 第 81 回～第 120 回：80 時間
- ・ 野球の試合運営に関するサポート力など 第 121 回～第 160 回：80 時間

授業の進め方

実習を主として進める。

授業の達成目標 (学習・教育到達目標との関連)

- ・ 野球の知識・技能を習得する。(知識・理解)
- ・ 野球の試合を通じてチームプレイやフォーメーションを理解する。(判断・思考)
- ・ 野球の楽しさや奥深さを理解する。(関心・意欲)
- ・ 野球の練習や試合を通じてチーム競技の協調性を養う。(態度・倫理)
- ・ 練習法や指導法を身につけ、グループ学習におけるリーダーとしての資質を養う。(発信・表現)

成績評価の基準および評価方法

日々のレポート提出（40%）、実技テストの結果（40%）と、授業の参加態度（20%）を持って、評価する。

授業外学習（予習・復習）の指示

特になし。

教科書

なし。

参考書

なし。

実務経験

備考

なし。

科目名：スポーツ教育基礎演習Ⅱ

担当教員	林 亮介				
科目の種類	一般	単位区分	選択	単位数	10 単位
授業方法	実験・実習	開講学期	通年	学年	2 年
学科・コース	情報社会学科				

授業概要

本授業では、社会人野球を通じて技能を向上とともに、チームプレイやフォーメーション、ルールや戦術に関する知識と理解を深め、社会人として必要な、「挨拶」、「マナー」をグラウンドでの人活動を通じて人間教育を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置付け

入学後の社会人野球を通じて技術を向上させる起訴段階に当たる。

授業項目（10 単位＝160 回分・320 時間）

- ・ オリエンテーション 第 1 回～第 6 回：12 時間
「挨拶」・「マナー」
- ・ 運動の基本動作の理解 第 7 回～第 40 回：68 時間
- ・ 野球の技術構造の理解 第 41 回～第 80 回：80 時間
- ・ 練習法の理解と実装 第 81 回～第 120 回：80 時間
- ・ 野球の試合運営に関するサポート力など 第 121 回～第 160 回：80 時間

授業の進め方

実習を主として進める。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

- ・ 野球の知識・技能を習得する。（知識・理解）
- ・ 野球の試合を通じてチームプレイやフォーメーションを理解する。（判断・思考）
- ・ 野球の楽しさや奥深さを理解する。（関心・意欲）
- ・ 野球の練習や試合を通じてチーム競技の協調性を養う。（態度・倫理）
- ・ 練習法や指導法を身につけ、グループ学習におけるリーダーとしての資質を養う。（発信・表現）

成績評価の基準および評価方法

日々のレポート提出（40%）、実技テストの結果（40%）と、授業の参加態度（20%）を持って、評価する。

授業外学習（予習・復習）の指示

特になし。

教科書

なし。

参考書

なし。

実務経験

備考

なし。

科目名：スポーツ教育学応用演習

担当教員	林 亮介				
科目の種類	一般	単位区分	選択	単位数	5 単位
授業方法	実験・実習	開講学期	前期	学年	3 年
学科・コース	情報社会学科				

授業概要

本授業では、社会人野球を通じて技能を向上とともに、チームプレイやフォーメーション、ルールや戦術に関する知識と理解を深め、社会人として必要な、「挨拶」、「マナー」をグラウンドでの人活動を通じて人間教育を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置付け

スポーツ教育基礎演習Ⅰ，Ⅱで学習し、身に着けた技術を踏まえて受講する。

授業項目（4 単位＝80 回・160 時間）

- ・ オリエンテーション 第 1 回～第 2 回：4 時間
「挨拶」・「マナー」
- ・ 運動の基本動作の理解 第 3 回～第 20 回：16 時間
- ・ 野球の技術構造の理解 第 9 回～第 40 回：40 時間
- ・ 練習法の理解と実装 第 17 回～第 60 回：40 時間
- ・ 野球の試合運営に関するサポート力など 第 25 回～第 80 回：16 時間

授業の進め方

実習を主として進める。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

- ・ 野球の知識・技能を習得する。（知識・理解）
- ・ 野球の試合を通じてチームプレイやフォーメーションを理解する。（判断・思考）
- ・ 野球の楽しさや奥深さを理解する。（関心・意欲）
- ・ 野球の練習や試合を通じてチーム競技の協調性を養う。（態度・倫理）
- ・ 練習法や指導法を身につけ、グループ学習におけるリーダーとしての資質を養う。（発信・表現）

成績評価の基準および評価方法

日々のレポート提出（40%）、実技テストの結果（40%）と、授業の参加態度（20%）を持って、評価する。

授業外学習（予習・復習）の指示

特になし。

教科書

なし。

参考書

なし。

実務経験

備考

なし。

科目名 栄養学 I

担当教員	森 歩美				
科目の種類	一般	単位区分	選択	単位数	1 単位
授業方法	講義・演習	開講学期	前期	学年	1 年
学科・コース	情報社会学科				

授業概要

アスリートに必要な栄養学の基礎知識を習得する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置付け

栄養の役割を理解し、パフォーマンス向上のために適切な食事の選択、体調管理の方法を学ぶ。

授業項目

- (1) 栄養素と食品の基礎知識①
- (2) 栄養素と食品の基礎知識②
- (3) 身体のしくみ
- (4) エネルギー代謝
- (5) コンディショニングのための栄養
- (6) 競技力向上のための栄養
- (7) アスリートの食事①
- (8) アスリートの食事②

授業の進め方

授業時間内には講義行う

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

アスリートの食事（栄養）の大切さを理解し、実生活に取り入れることができる。

成績評価の基準および評価方法

授業態度 20%、提出物 80%

教科書

特になし

参考書

ー基礎から学ぶースポーツ栄養学 ベースボール・マガジン社

実務経験

備考

特になし

科目名：ビジネス検定Ⅰ

担当教員	宮本 賀世子				
科目の種類	一般	単位区分	必須	単位数	3
授業方法	講義・演習	開講学期	通年	学年	1
学科・コース	情報社会学科				

授業概要

ビジネス能力検定 3 級の出題区分の『キャリアと仕事へのアプローチ』、『仕事の基本となる 8 つの意識』、『コミュニケーションとビジネスマナーの基本』、『支持の受け方と報告・連絡・相談』、『来客人の対応と訪問の基本マナー』について学習する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置付け

ビジネス能力検定 3 級の合格を目指す。

授業項目

- (1) 授業概要についての解説
キャリアと仕事へのアプローチ
- (2) 会社の基本とルールについて
- (3) 仕事の基本となる 8 つの意識
顧客意識、品質意識、納期意識
- (4) 仕事の基本となる 8 つの意識 (2)
時間意識、目標意識、協調意識
改善意識、コスト意識
- (5) コミュニケーションとビジネスマナーの基本
円滑なコミュニケーションについて、コミュニケーションを支えるマナー、
- (6) コミュニケーションとビジネスマナーの基本 (2)
社会人としての身だしなみ、感じの良い挨拶
- (7) コミュニケーションとビジネスマナーの基本 (3)
お辞儀の基本、仕事中的態度と健康管理、入社から退社までと休暇のルール
- (8) 単位認定試験
- (9) 指示の受け方と報告・連絡・相談
指示を受けるポイント、報告と連絡の仕方
指示の受け方と報告・連絡・相談 (2)
連絡と相談の仕方と忠告の仕方
- (10) 話し方と聞き方のポイント

ビジネスにふさわしい話し方、ビジネスにふさわしい言葉遣い、

(11) 話し方と聞き方のポイント

敬語の種類と必要性、

(12) 話し方と聞き方のポイント (2)

敬語と尊敬語の使い分け、聞き方の基本

(13) 来客の対応と訪問の基本マナー・会社関係での付き合い

(14) 授業概要についての解説・仕事への取り組み方 (1)

- ・業務の流れとスケジュール、定型業務と否定形業務、マニュアル
- ・効率的・合理的な仕事の進め方、PDCAについて

(15) 仕事への取り組み方 (2)

- ・スケジュール管理と情報整理、パソコンと情報ネットワークについて
- ・電子メールの活用

(16) 単位認定試験

(17) ビジネス文書の基本

- ・ビジネス文書の役割、ビジネス文書の種類について
- ・社内文書の種類と作成例

(18) ビジネス文書の基本

- ・社外文書の種類と作成例、ビジネス文書のあいさつと様式について
- ・封筒・はがきの使い方、電子メールの書き方

(19) 電話対応

- ・電話の受け方

(20) 電話対応

- ・電話のかけ方、電話の取次ぎと携帯電話のマナー

(21) 統計・データの読み方・まとめ方

- ・表とグラフの役割と特徴、表の読み方とまとめ方
- ・グラフの作り方と特徴

(22) 情報収集とメディアの活用

- ・情報の取捨選択、インターネットなどからの情報収集
- ・新聞からの情報収集

(23) 会社を取り巻く環境と経済の基本

- ・新聞の読み方について

(24) 単位認定試験

授業の進め方

授業時間内には講義を行う。

授業の達成目標 (学習・教育到達目標との関連)

ビジネス能力検定 3 級の出題区分の『キャリアと仕事へのアプローチ』、『仕事の基本となる 8 つの意識』、『コミュニケーションとビジネスマナーの基本』、『支持の受け方と報告・連絡・相談』、『来客人の対応と訪問の基本マナー』の内容に関して約 8 割の内容が理解出来ている事。

成績評価の基準および評価方法

定期考査の点数（80%）、出席率および授業態度（20%）として評価

授業外学習（予習・復習）の指示

授業の都度、指示する。

教科書

なし

参考書

ビジネス能力検定 3 級 公式問題集

実務経験

備考

特になし

科目名 ビジネス検定Ⅱ

担当教員	宮本 賀世子				
科目の種類	一般	単位区分	選択	単位数	1
授業方法	講義・演習	開講学期	後期	学年	1
学科・コース	情報社会学科				

授業概要

ビジネス能力検定試験 3 級の合格を目指す。

カリキュラムにおけるこの授業の位置付け

ビジネス能力検定 3 級の合格を目指す。講義については、ビジネス検定Ⅰにて修得し、試験対策を本講座にて行う。

授業項目

- (1) 過去問・模擬試験
過去問の解答と解説を行う。
- (2) 過去問・模擬試験
- (3) 過去問・模擬試験
- (4) 過去問・模擬試験
- (5) 過去問・模擬試験
- (6) 過去問・模擬試験
- (7) 過去問・模擬試験
- (8) 単位認定試験

授業の進め方

授業時間内は、過去の検定試験の問題演習を中心に行う。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

ビジネス能力検定 3 級に合格する事。

成績評価の基準および評価方法

過去問に対する評価の平均得点（80%）、出席率および授業態度（20%）として評価

授業外学習（予習・復習）の指示

授業の都度、指示する。

教科書

なし

参考書

ビジネス能力検定 3 級 公式問題集

実務経験

備考

科目名 キャリアプラン I

担当教員	宮崎 利恵				
科目の種類	一般	単位区分	必須	単位数	4
授業方法	講義・演習	開講学期	通年	学年	1
学科・コース	情報社会学科				

授業概要

就職活動に必要な知識を身に着ける。

カリキュラムにおけるこの授業の位置付け

スムーズに就職活動が行えるよう指導する。業界分析、自己分析を行い、履歴書を完成させる。

授業項目

以下の内容を随時実施する。

- ・業界分析
 - IT 企業を中心に就職先となりえる企業を分析
- ・自己分析
 - 内的キャリア、外的キャリアを考える
 - 自分がどうしたいかを考える：やりたいことはなにか
 - 自分がどういう人かを考える：自己分析、人生曲線
- ・履歴書作成
 - 志望動機以外の完成品
- ・試験対策（SPI、CAB、GAB 等）
 - 演習問題の実施
- ・ビジネスマナー
 - ビジネスシーンでの常識とマナーについて幅広く学ぶ

授業の進め方

- 1) 講義を通して就職活動の方法を理解する
- 2) 履歴書作成についてアドバイス（手書き、スプレッドシート）
- 3) 授業担当者からのアドバイス など

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

就職活動の方法を理解する。

成績評価の基準および評価方法

課題の点数（80%）、授業態度（20%）として評価

授業外学習（予習・復習）の指示

授業の都度、指示する。

教科書

なし

参考書

なし

実務経験

備考

科目名 キャリアプランⅡ

担当教員	植田 吉祥				
科目の種類	一般	単位区分	必須	単位数	4
授業方法	講義・演習	開講学期	通年	学年	2
学科・コース	情報社会学科				

授業概要

就職活動に必要な知識を身に付け、情報収集しながら就職活動を実践する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置付け

スムーズに就職活動が行えるよう指導する。企業研究、自己分析、履歴書作成、面接練習等を実施する。

授業項目

就職活動状況に応じて以下の内容を随時実施する。

- ・学内での会社説明会実施
- ・企業研究
- ・自己分析
- ・履歴書作成
- ・面接練習
- ・試験対策（SPI、CAB、GAB 等）
- ・ビジネスマナー

授業の進め方

- 3) 講義を通して就職活動の方法を理解する
- 4) 履歴書作成についてアドバイス（手書き、スプレッドシート）
- 3) 授業担当者からのアドバイス など
- 4) 各自の就活状況の確認

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

進路の決定、内定の取得

成績評価の基準および評価方法

進路の決定、内定の取得（80%）、出席率および授業態度（20%）として評価

授業外学習（予習・復習）の指示

授業の都度、指示する。

教科書

なし

参考書

なし

実務経験

備考

科目名：コンピュータリテラシー

担当教員	植田 吉祥				
科目の種類	一般	単位区分	必須	単位数	1
授業方法	講義・演習	開講学期	集中	学年	1
学科・コース	情報社会学科				

授業概要

PC の基本操作に慣れ、抵抗感をなくし、情報リテラシーの基礎を習得し、安全かつ効果的に情報を扱える知識とスキルを身に付ける。

カリキュラムにおけるこの授業の位置付け

カリキュラム共通で利用するパソコン環境やその使用方法を習得する。学校側からパソコン上で提供される情報や資料の観覧方法、また学生側からの課題提出方法、テスト受験方法などを理解し、授業で使えるようになること。

授業項目

- (1) PC の基本操作とファイル管理の基礎
 - ① コンピュータリテラシーとは何か？なぜ重要なのか？
 - ② PC の各部名称と役割（ハードウェアの基本）
 - ③ マウスとキーボードの基本操作（クリック、ダブルクリック、右クリック、ドラッグ&ドロップ、基本的なキー入力）
 - ④ OS の基本操作（ウィンドウの操作、タスクバー、スタートメニューなど）
 - ⑤ ファイルとフォルダの概念、作成、保存、基本的な整理方法（名前の付け方、階層構造）
- (2) タイピング技能の向上 - 正確さと速度を意識して
 - ① キーボードの構造とホームポジション
 - ② タッチタイピングの基本練習（指の配置、キーの押下方法）
 - ③ タイピング練習ソフトやウェブサイトの紹介と活用
 - ④ 正確性を意識した練習方法、速度向上のためのポイント
 - ⑤ 簡単な文章の入力練習
- (3) インターネットの基礎 - 情報へのアクセスと検索のコツ
 - ① インターネットの仕組み（World Wide Web とは）
 - ② ウェブブラウザの基本操作（URL 入力、ブックマーク、タブ機能など）
 - ③ 検索エンジンの基本的な使い方と効果的なキーワードの選び方

- ④ 検索結果の評価と信頼性の判断の基礎
- ⑤ 情報収集における著作権の基礎

(4) 情報収集スキル Up - より深く、より早く

- ① 検索演算子の活用 (AND, OR, NOT, フレーズ検索など)
- ② フィルタリング機能の活用 (期間、言語、ファイル形式など)
- ③ 画像検索、動画検索など、多様な検索方法の紹介
- ④ 専門分野の情報源の探し方 (業界団体、学術機関など)
- ⑤ 収集した情報の整理・保存方法の復習と効率化

(5) 文書作成ソフトの基本 - レポート作成の第一歩

- ① 主要な文書作成ソフトの紹介 (Word、Google ドキュメントなど)
- ② 基本的な操作 (文字入力、編集、書式設定：フォント、サイズ、色、太字など)
- ③ 段落設定、箇条書き、番号付けの活用
- ④ 基本的なレイアウト調整
- ⑤ 保存と印刷

(6) 文書作成ソフトの応用 - 表や図の挿入、効率的な編集

- ① 表の作成と編集 (罫線、セルの結合・分割、簡単な計算)
- ② 図形、画像の挿入と配置
- ③ ヘッダーとフッターの設定
- ④ ページ番号の挿入
- ⑤ 効率的な編集機能の紹介 (ショートカットキー、スタイルの活用)

(7) プレゼンテーションソフトの基本 - 情報を効果的に伝える

- ① 主要なプレゼンテーションソフトの紹介 (PowerPoint、Google スライドなど)
- ② スライドの基本操作 (新規作成、レイアウト選択、テキスト入力、図形・画像の挿入)
- ③ アニメーションとトランジションの設定 (基本的なものに留める)
- ④ 発表の際の注意点 (文字サイズ、色使い、情報量など)
- ⑤ 簡単なプレゼンテーション資料の作成

(8) 情報セキュリティとネチケット - 安全で快適なデジタルライフのために

- ① 情報セキュリティの重要性 (パスワード管理、不正アクセス対策、ウイルス対策の基礎)
- ② 不審なメールやファイルへの注意
- ③ 個人情報の取り扱い
- ④ 著作権・知的財産権の再確認
- ⑤ SNS やインターネット利用におけるマナー (ネチケット)
- ⑥ トラブルシューティングの基礎 (再起動、簡単な設定確認など)

授業の進め方

授業時間内には講義と演習を交互に行い、適度に演習やグループワークを取り入れる。
小テスト（キーワードの確認問題）や課題などを通して、理解度を確認する。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

将来、社会人として必要となるデジタルスキルの基礎を理解する。

成績評価の基準および評価方法

定期考査の点数（80%）、出席率および授業態度（20%）として評価

授業外学習（予習・復習）の指示

授業の都度、指示する。

教科書

講義資料を Moodle 上に配布し、その資料に沿って授業を進める。

参考書

なし

実務経験

備考

なし

科目名 ビジネス文書

担当教員	岡部 美奈				
科目の種類	一般	単位区分	選択	単位数	2
授業方法	講義・演習	開講学期	前期	学年	1
学科・コース	メディアコミュニケーション Web クリエイター学科				

授業概要

Word 操作及び活用が出来る様になる知識を習得する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置付け

Windows パソコン操作の基礎より順を追って学び、Word の活用が可能になる様にする。

授業項目

(1) Windwos11 の基礎

(1) Word 365 入門：起動と終了、画面構成、日本語の入力、文字の入力、短文の入力

(1) Word 365 入門：入力の訂正、文章の入力、文書の保存と読み込み

(2) Word 365 入門：文書の印刷、特殊な入力方法、単語登録、複写・削除・移動

(3) Word の基礎：編集機能 1 (書式設定、右揃え、中央揃え(センタリング)、箇条書き)

(4) Word の基礎：編集機能 2 (フォントの変更、フォントサイズの変更、下線、表作成)

(5) Word の基礎：編集機能 3 (均等割り付け、ルビ、文字の網掛け)

(6) Word の基礎：表の編集

(7) Word の活用：アイコン・3D モデルの挿入

(8) 確認試験

(9) Word の活用：画像・テキストの挿入、ワードアート・段組み

(10) インターネットの利用：AI 機能(Copilot in Word)

(11) 実習：文字・段落・表、表とリスト

(12) 実習：グラフィック要素

(13) 実習：他のデータの利用

(14) 実習：長文作成と参考資料

(15) 実習：文書の校閲と共有

(16) 単位認定試験

授業の進め方

1) 講義を聴講し、パソコンで Word 操作を行う

- 2) 授業担当者からのアドバイス など
- 3) 確認テストを含む課題を出題

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

Windows 操作 及び Word の活用ができるようになる事

成績評価の基準および評価方法

定期考査の点数（80%）、出席率および授業態度（20%）として評価

授業外学習（予習・復習）の指示

授業の都度、指示する。

教科書

特になし。

参考書

実教出版 15 時間でマスター はじめての Word365 & Word2024

実務経験

備考

科目名 表計算

担当教員	岡部 美奈				
科目の種類	一般	単位区分	選択	単位数	2
授業方法	講義・演習	開講学期	後期	学年	1
学科・コース	メディアコミュニケーション Web クリエイター学科				

授業概要

Excel 操作及び活用が出来る様になる知識を習得する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置付け

Windows パソコン操作の基礎 及び 表計算を基礎より順を追って学び、Excel の活用が可能になる様にする。

授業項目

- (1) Windwos11 の基礎
- (1) Excel 365 入門：起動と終了、画面構成、データ入力の基礎、データ入力の基礎
- (2) Excel 365 入門：基本的なワークシートの編集
- (3) Excel 365 入門：ワークシートの書式設定
- (4) Excel 365 入門：グラフの作成(棒グラフ、円グラフ)
- (5) Excel 365 入門：グラフ設定の変更
- (6) Excel 365 の基礎：関数の挿入 1 (合計、最大値・最小値、数値の個数)
- (7) Excel 365 の基礎：関数の挿入 2 (順位づけ、四捨五入、判定、条件による集計)
- (8) 確認試験
- (9) Excel 365 の活用：データベース機能 1 (並び替え、フィルター、条件付き書式)
- (10) Excel 365 の活用：データベース機能 2 (テーブル、表の検索)
- (11) Excel 365 の活用：データの集計
- (12) Microsoft365 の活用：AI 機能(Copilot in Excel)
- (13) Microsoft365 の活用：Microsoft 365
- (14) Excel によるデータ分析
- (15) 実習
- (16) 単位認定試験

授業の進め方

- 1) 講義を聴講し、パソコンで Excel 操作を行う

- 2) 授業担当者からのアドバイス など
- 3) 確認テストを含む課題を出題

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

Windows 操作 及び 表計算を理解し、Excel の活用ができるようになる事

成績評価の基準および評価方法

定期考査の点数（80%）、出席率および授業態度（20%）として評価

授業外学習（予習・復習）の指示

授業の都度、指示する。

教科書

特になし

参考書

実教出版 15 時間でマスター はじめての Excel365 & Excel2024

実務経験

備考

科目名 MOS 対策 (Excel)

担当教員	岡部 美奈				
科目の種類	一般	単位区分	必須	単位数	2
授業方法	講義・演習	開講学期	後期	学年	1
学科・コース	情報社会学科				

授業概要

Microsoft Office Specialist Excel の合格に向け、試験形式で演習を中心に実施する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置付け

ビジネスで使用される表計算ソフト Excel の操作に関する技術を、Excel MOS 資格の取得を通じて身に着ける。

授業項目

- (1) 授業概要と、Excel MOS 資格についての受験についての概要を説明する。
Excel のワークシートやブックの作成管理について学習する
 - ・新規ブックの作成方法、テンプレートからのブックの作成について学習する
 - ・テキストファイルからのインポート、シート名の変更・追加・コピーについて学習する
- (2) ワークシートやブックの書式の設定について理解する
 - ・名前ボックスを使ったセルの移動、ハイパーリンクの設定について理解する
 - ・用紙のレイアウトの設定、テーマについて学習する
 - ・ヘッダーやフッターについての設定について学習する
 - ・列の高さや、行の幅についての設定について学習する
- (3) ワークシートやブックのオプションと表示をカスタマイズする方法について理解する
 - ・表示モードの切り替えや表示倍率、ウィンドウ分割について学習する
 - ・ブックのプロパティ、クイックアクセスツールバーについて学習する
 - ・印刷設定や、異なるファイルの形式への出力について学習する。
- (4) ワークシートやブックの作成と管理について学習する
 - ・複数ページでタイトルの設定、ブック内の個人情報の削除やアクセシビリティについて
- (5) セルやセル範囲のデータ管理について学習する
 - ・オートフィル、ラッシュフィル、コピーと様々な貼り付け、セルの削除について学習する
 - ・データの置換方法、セルの書式設定、インデント、折り返し、結合について理解する
 - ・セルの表示形式とスタイルの適用方法について理解する
- (6) データをまとめて整理する方法について学習する
 - ・スパークライン、アウトライン、表に集計行を付加することについて学習する

- ・ テーブルに対して、条件付き書式の設定、カラスケールの適用などについて学習する
- (7) テーブルの作成と管理、スタイルの設定とフィルターなどの機能について学習する
 - ・ セル範囲からテーブルを作成する方法、行と列の追加と削除、セル範囲の変換について
 - ・ テーブルスタイルの適用方法について学習する
 - ・ テーブルレコードの並び替えと抽出について学習する
- (8) 数式や関数を使用した演算の実行
 - ・ 相対参照、絶対参照、複合参照について学習する
 - ・ sum 関数、average 関数、min 関数、max 関数、count 関数について理解する
- (9) 数式や関数を使用した演算の実行
 - ・ if 関数、sumif 関数、averageif 関数、countif 関数について学習する
- (10) 数式や関数を使用した演算の実行
 - ・ right 関数、left 関数、mid 関数、upper 関数、lower 関数、proper 関数について学習する
 - ・ concatenate 関数について理解する
- (11) グラフやオブジェクトの作成について学習する
 - ・ データ範囲を適切に選択し、グラフを作成する方法について学習する
 - ・ グラフの調整方法について学習する
- (12) グラフやオブジェクトの作成について学習する（2）
 - ・ グラフオブジェクトにたいして、図やテキストボックスの挿入について学習する
 - ・ グラフオブジェクトの操作方法について学習する
- (13) 模擬試験
- (14) 模擬試験
- (15) 模擬試験
- (16) 単位認定試験

授業の進め方

授業時間内にパソコンで実習を行う。毎時、授業終了時に当日の授業内容についての演習記録の提出を課す。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

Microsoft Office Specialist Excel を合格する事。

成績評価の基準および評価方法

定期考査の点数もしくは MOS Excel の受験時のスコア（80%）、授業態度（20%）として評価

教科書

なし

参考書

「Microsoft Office Specialist MOS Excel 365&2019 対策テキスト& 問題集」(FOM 出版)

実務経験

備考

科目名 MOS 集中講座

担当教員	岡部 美奈				
科目の種類	一般	単位区分	選択	単位数	1 単位
授業方法	講義・演習	開講学期	前期	学年	2 年
学科・コース	情報社会学科				

授業概要

Microsoft Office 基本的な操作として、Excel の基本的な操作方法を身に付け、Microsoft Office Specialist Excel 365 の合格を目指して、トレーニングを行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置付け

表計算ソフト Microsoft Excel の基本的な操作方法を身に付け、検定試験の合格を目指す。

授業項目

- 1) Microsoft Excel で出題される試験範囲の確認
- 2) 試験範囲で出題される特殊な関数の演習と解説
- 3) 模擬試験 1 の演習と解説
- 4) 模擬試験 2 の演習と解説
- 5) 模擬試験 3 の演習と解説
- 6) 模擬試験 4 の演習と解説
- 7) 模擬試験 5 の演習と解説
- 8) 試験は二のまとめとテストの受験の方法について。

授業の進め方

- 1) 演習問題を行う。
- 2) 不正解の問題に対して、解答・解説を行い、解き方を示す。
- 3) 問題の習熟の為に、再度問題を解く。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

MOS Excel365 の受験をし、合格を目指す。

成績評価の基準および評価方法

定期考査の点数（80%）、出席率および授業態度（20%）として評価

授業外学習（予習・復習）の指示

特になし

教科書

なし

参考書

MOS Excel 365 対策テキスト&問題集（よくわかるマスター）（株式会社富士通ラーニングメディア）

実務経験

備考

科目名 ビジネスアプリ活用

担当教員	渡辺 眞未				
科目の種類	専門	単位区分	選択	単位数	5 単位
授業方法	講義・演習	開講学期	通年	学年	3 年生
学科・コース	情報社会学科				

授業概要

パソコンで用いられる Google Workspace に用意されている様々なアプリの使い方を習得することで、ビジネスにおいて活用できる力を身に着ける。

カリキュラムにおけるこの授業の位置付け

オンラインで利用できる google のツールについて学習し、その利用方法を習得する。

前提となる知識は特にない。

Google の各アプリは仕事で使うことができるために、その活用方法についても、学習する。

授業項目

以下は、各週ごとの進捗の目標を記載している・

1. Google Workspace についての概要について理解する。
アプリを使用できるようにするまでの準備、できることについて全体を学ぶ。
2. Google Document について学習する。
3. Google Document について学習レポートを作成する。
4. Google Spread Sheet（表計算）について学習する。
5. Google Spread Sheet について学習レポートを作成する。
6. Google Spread Sheet と Excel の相違点について
7. Google Spread Sheet のユーザ関係編集機能について
8. Google Mail（Gmail）の活用方法
9. Google Mail（Gmail）の活用方法（2）
10. Google Calenda の活用方法
11. Google Calenda の活用方法（2）
12. 単位認定試験
13. Google ドライブの活用
14. Google ドライブの活用方法（オンラインアプリ）
15. TO DO リストの使用方法
16. Google スライドの活用方法
17. Google スライドの活用方法（2）

18. Google Meet を使った、オンライン会議の開催方法について
19. Google Chat を使った、メッセージのやり取りについて
20. Google Vids を使った動画制作について
アプリの操作方法について
21. Google Vids を使った動画制作について（2）
動画の制作演習 1 回目
22. Google Vids を使った動画制作について（3）
動画の制作演習 2 回目
23. Google Keep を使ったメモの取り方
24. 単位認定試験
25. Google Forms の活用
26. Google Forms を使ったアンケートの取得
27. Google Sites を使った Web ページの作成
28. Google Sites を使った Web ページの作成（2）
29. Google Sites を使った Web ページの作成（3）
30. Google Gemini を使用したテキスト生成について
31. Google Gemini を使用して画像・動画生成について
32. 単位認定試験
33. 自分だけのデータを用いた AI の生成（NotebookLM を使用する）
34. 自分だけのデータを用いた AI の生成（NotebookLM を使用する）
35. 自分だけのデータを用いた AI の生成（NotebookLM を使用する）
36. 演習・まとめ
37. 演習・まとめ
38. 演習・まとめ
39. 演習・まとめ
40. 単位認定試験

授業の進め方

授業は講義および実践形式で行う。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

Google Workspace で提供されるアプリを使用して仕事を進めることができる。

成績評価の基準および評価方法

製作物の難易度（20%）、製作物の完成度（60%）、出席率および授業態度（20%）として評価

教科書

なし

参考書

なし

実務経験

備考

科目名：プレゼンテーション

担当教員	岡部 美奈				
科目の種類	一般	単位区分	選択	単位数	2
授業方法	講義・演習	開講学期	前期	学年	2
学科・コース	情報社会学科				

授業概要

準備からリハーサル・本番までのプレゼンテーションの流れ、PowerPoint の操作手順を理解する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置付け

講究なのでプレゼンテーションを実施する機会があるため、プレゼンテーションの基本的な操作・知識を習得する。

授業項目

- (1) プレゼンテーションとは
- (2) プレゼンテーションのストーリー、視覚資料の作成 1
- (3) プレゼンテーションのストーリー、視覚資料の作成 2
- (4) PowerPoint を使ったプレゼンテーション資料の作成 1
- (5) PowerPoint を使ったプレゼンテーション資料の作成 2
- (6) PowerPoint を使ったプレゼンテーション資料の作成 3
- (7) プレゼンテーションテクニック 1
- (8) プレゼンテーションテクニック 2
- (9) プレゼンテーションテクニック 3
- (9) プレゼンテーションテクニック 4
- (10) プレゼンテーションの実施と反省 1
- (11) プレゼンテーションの実施と反省 2
- (12) プレゼンテーション資料作成 1
- (13) プレゼンテーション資料作成 2
- (14) プレゼンテーション資料作成 3
- (15) 単位認定（プレゼン実習 1）
- (16) 単位認定（プレゼン実習 2）

授業の進め方

- 1) 講義を聴講し、パソコンで PowerPoint 操作を行う
- 2) 授業担当者からのアドバイス など
- 3) moodle による確認テスト

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

講究等でプレゼンテーションを実施するための知識や手順を習得する。

成績評価の基準および評価方法

定期考査の点数（80%）、出席率および授業態度（20%）として評価

授業外学習（予習・復習）の指示

授業の都度、指示する。

教科書

なし

参考書

実教出版 30 時間でマスター プレゼンテーション+PowerPoint2016

実務経験

備考

科目名：生成 AI 概論&リテラシー

担当教員	木原 道康				
科目の種類	一般	単位区分	選択	単位数	1
授業方法	講義	開講学期	前期	学年	1
学科・コース	情報社会学科				

授業概要

2020 年代に入り、生成 AI 技術は劇的な発展を遂げ、テキスト、画像、音声などを自動生成する強力な道具として、ビジネスや学習の現場に急速に普及しています。その一方で、AI がもってもしい嘘をつく「ハルシネーション」や、著作権、プライバシー侵害といった、社会に深刻なダメージを与えかねないリスクも顕在化しています。本講義では、生成 AI の定義や仕組みといった基礎知識から、プロンプトエンジニアリングを用いた実践的な活用方法までを幅広く学びます。

また、技術的な側面だけでなく、ELSI（倫理的・法的・社会的課題）やデータセキュリティについても深く掘り下げます。生成 AI の利便性と限界の両面を正しく理解し、法的・倫理的な観点を備えることで、AI を社会的に信頼される道具として責任を持って使いこなすための高度なリテラシーを身に付けることを目指します。

カリキュラムにおけるこの授業の位置付け

生成 AI の基礎知識と実践的な活用技術を習得する。

単に技術的な利便性を享受するだけでなく、その背後にある倫理的・法的・社会的課題（ELSI）やセキュリティ上のリスクを正しく理解することで、AI を社会的に信頼される道具として責任を持って使いこなすための高度なリテラシーの習得を目指す

授業項目

第 1 回：生成 AI の概要とその原理

内容: 生成 AI の定義と、従来の検索エンジンとの違いについて学びます。

主な項目:

生成 AI とは：テキスト、画像、音声などを自動生成する技術。

生成 AI の原理：大量のデータを学習し、その背後にある傾向（確率分布）を推定して、似たデータを生成する仕組み。

「検索」と「生成 AI」の違い：情報をそのまま提示するか、学習に基づき新たに作り出すか。

第 2 回：生成 AI の発展と多様な生成対象

内容: 2020 年代以降の劇的な技術発展と、生成できるコンテンツの種類を概観します。

主な項目:

生成 AI の発展：深層ニューラルネットワークによるクオリティの向上。

多様な生成対象：テキスト、静止画、動画（Sora など）、音（音楽・音声）の最新事例。

基盤モデルと大規模言語モデル（LLM）：GPT-3/4 などの大規模な事前学習モデルの仕組み。

第3回：テキスト生成 AI の活用と実習

内容：ビジネスや学習の現場で利用されているテキスト生成 AI の具体的な応用事例を学びます。

主な項目：

活用事例：対話（チャット）、翻訳、要約、文章の推敲（研究者風への変換など）。

プログラミング支援：自然言語によるコード生成（Python など）とその動作確認。

第4回：画像・音生成 AI の活用とプロンプトエンジニアリング

内容：メディア生成 AI の活用法と、AI を使いこなすための指示出しの技術を学びます。

主な項目：

画像・音楽生成の応用：デザイン案の作成、実在しない事物の画像化、歌詞からの作曲。

プロンプトエンジニアリング：望ましい結果を得るための工夫（コンテキスト内学習、思考連鎖(CoT) など）。

第5回：生成 AI の留意事項 誤情報・バイアス・差別

内容：生成 AI が抱える技術的な限界と、それによって生じる社会的なリスクを理解します。

主な項目：

ハルシネーション（幻覚）：もっともらしい嘘をつく問題。

統計的差別とバイアス：学習データに起因する不当な差別（Amazon の採用アルゴリズムの例など）。

フェイクコンテンツ：偽情報の拡散やディープフェイクによる悪用のリスク。

第6回：生成 AI と法的・倫理的課題（ELSI）

内容：生成 AI を取り巻く ELSI（倫理的・法的・社会的課題）について、著作権を中心に学びます。

主な項目：

著作権の問題：AI の学習への利用、および生成物の著作権侵害に関する議論。

AI 生成物の著作権：人間がどこまで関与すれば著作権が認められるか。

社会的な受容：人間中心の AI 社会原則や GDPR（欧州一般データ保護規則）の考え方。

第7回：データ倫理とプライバシー保護

内容：データを扱う上での健全性と、個人情報を守るための権利について学びます。

主な項目：

データ取り扱いの健全性：捏造、改竄、剽窃の禁止。

プライバシーと個人情報：要配慮個人情報の取り扱いと SNS 等での暴露リスク。

忘れられる権利、説明に基づく同意、オプトイン・オプトアウトの概念。

第8回：データセキュリティと将来の展望

内容：データを守る技術的手段と、AI が社会に与える長期的影響について考えます。

主な項目:

情報セキュリティの3要素: 機密性、完全性、可用性。

匿名化の限界とサイバー攻撃: データ流出の事例と防御策。

AI カニバリズム (共食い): AI 生成データによる学習が品質劣化を招く問題。

まとめ: アカウンタビリティ (説明責任) とトラスト (信頼) の設計。

授業の進め方

30 分～45 分程度の授業動画を視聴し、毎回の動画内容の理解度小テスト、レポートの作成を実施。

授業の達成目標 (学習・教育到達目標との関連)

- ・ 生成 AI の仕組みと特性の理解 (知識・理解)
- ・ 生成 AI を使いこなす実践能力 (技能・活用)
- ・ 社会的責任とリスク管理 (リテラシー・責任)

成績評価の基準および評価方法

小テストの点数 (40%)、レポート内容 (40%)、出席率及び授業態度など (20%) として評価を行う。

授業外学習 (予習・復習) の指示

授業の都度、指示する。

教科書

なし

参考書

なし

実務経験

備考

科目名 : GAIQ (Google Analytics Individual Qualification)

担当教員	植田 吉祥				
科目の種類	専門	単位区分	選択	単位数	4 単位
授業方法	講義・演習	開講学期	後期	学年	3 年
学科・コース	情報社会学科				

授業概要

Google アナリティクスの資格として唯一の GAIQ (Google Analytics Individual Qualification) は、目標やフィルタなどの各種設定、メニュー操作、クロスドメイントラッキングの知識など幅広い Google アナリティクスの技術、知識について学習する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置付け

データ分析の中で、Web のアクセス分析に特化した GAIQ の合格を目指す

授業項目

- (1) オリエンテーション、授業概要について、Google アナリティクス 4 についての概略
- (2) Google アナリティクスを使いこなすコツ、主要指標一覧
- (3) Google アナリティクスとユニバーサルアナリティクスの違い
- (4) ユーザ指標とセッション指標でサイトへの訪問数を調べる
- (5) 新規ユーザの定着状況の調査、新規ユーザとリピーターでサイト定着状況を調べる
- (6) ページの「ユーザ」で人気のあるページを調べる
- (7) スクロールと平均エンゲージメント時間について、離脱率についてとページの評価
- (8) 訪問経路を分類する「チャンネル名」について覚える。
- (9) Google アナリティクス 4 のアカウント構成について
- (10) 基礎分析を行うレポート機能
- (11) サイト内行動を調べる
- (12) 探索機能の活用（テンプレートの種類と使い方
- (13) 探索機能の活用（セグメント機能、フォールアウト分析う）
- (14) コンバージョン貢献度について調べる
- (15) 授業のまとめ
- (16) 単位認定試験
- (17) ユーザ軸・集客軸で分析するケーススタディ（ユーザーが増加した理由を突き止める）
- (18) 訪問経路とランディングページの愛称から問題を発見する
- (19) モバイルサイトの低 CVR について考える
- (20) 行動軸で分析するケーススタディ 特定ページの表示回数の原因を探る
- (21) ページ回収が成功したのか評する

- (22) Google アナリティクス の様々な機能 トラッキングコードを発行してサイトに設置する
- (23) コンバージョンイベントを設定する、ボタンのクリック数を測定するイベントの設定。
- (24) 複数ドメインを持つサイトに必須クロスドメイントラッキング設定
- (25) URL が同じページの測定には仮想ページビューを設定する
- (26) e コマーストラッキングコードと、コンテンツグループの設定方法について
- (27) 広告測定用パラメータを設定する。Google アナリティクス 4 と Google 広告のリンク設定について
- (28) 除外 IP 設定と、データ保持期間の変更
- (29) 問題演習
- (30) 問題演習
- (31) 問題演習
- (32) まとめ（単位認定試験対策）
- (33) 単位認定試験

授業の進め方

授業時間内には講義を行う。毎時、授業終了時に小テストを課す。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

定期考査の点数（80%）、授業態度（20%）として評価

授業外学習（予習・復習）の指示

なし

教科書

なし

参考書

Google アナリティクス 4 のやさしい教科書。 手を動かしながら学ぶアクセス解析の基本と実践ポイント；山野 勉 著；MdM Books

実務経験

備考

科目名：情報検定対策

担当教員	木村 利津男				
科目の種類	専門	単位区分	必須	単位数	4
授業方法	講義・演習	開講学期	前期	学年	1
学科・コース	情報社会学科				

授業概要

情報活用試験 3 級の出題区分の『パソコンの基礎』の内容について学習する

カリキュラムにおけるこの授業の位置付け

情報活用試験 3 級の合格を目指し、最終的には情報活用検定 3 級の試験を受験する。

授業項目

- (1) 情報とは：情報とデータ、2 進数について
- (2) 基数変換：2 進数⇔10 進数
- (3) 情報とは：デジタルとアナログ、ビットとバイトについて
- (4) 情報とは：単位と補助単位
- (5) 情報を収集するための検索方法：いろいろな情報検索・情報の整理方法について
インタビュー、アンケート、バズセッション、ブレインストーミング、KJ 法等の手法について学ぶ
- (6) 記憶装置の種類、入出力 I/F について
各種メディアの容量について学習する
- (7) オペレーティングシステム
オペレーティングシステムの構造とその仕組みについて学習する
- (8) Window の操作とファイル管理・拡張子について
- (9) インターネットについて
インターネットについての概略について
プロトコルとドメイン名
- (10) インターネットについて
ネットワークの接続形態と回線形態について
- (11) ナローバンドとブロードバンド回線について
回線の特性とメディアについて
- (12) WWW の仕組み
HTML タグ・CSS と WEB サーバーについての仕組み
URL とドメインについて

- (13) WEB 技術・検索エンジン・プラグインなど周辺技術
- (14) 電子メールの仕組み・電子メールの書き方・マナー
- (15) 中間試験
- (16) ワープロについて 演習
- (17) 様々なアプリケーション 概要
 - コンピュータ上で使用されるアプリケーションの種類について学習する
- (18) 身近なコンピュータと暮らし
 - 身近にあるコンピュータシステムについて概要を学習する
- (19) 情報社会の光と闇
 - 情報化社会による発展について学習する
 - デジタルデバイドなど情報社会についての負の面について学習する
- (20) 情報社会と情報モラル：情報社会の問題点
- (21) 情報社会と情報モラル：情報社会における個人
- (22) 情報社会と情報モラル：知的財産権と著作権
- (23) 情報モラルについてまとめ
- (24) ネットワークの利用とエチケット
 - ネットワークの利用とセキュリティ、ネチケットに対する基礎的な知識
- (25) 過去問題演習 令和 6 年 演習と解説
- (26) 過去問題演習 令和 5 年 演習と解説
- (27) 過去問題演習 令和 4 年 演習と解説
- (28) 過去問題演習 令和 3 年 演習と解説
- (29) 過去問題演習 令和 2 年 演習と解説
- (30) 過去問題演習 令和 1 年 演習と解説
- (31) 過去問題演習 平成 30 年 演習と解説
- (32) 単位認定試験（CBT による試験実施）

授業の進め方

過去問題による演習を行いながら、出題区分の『パソコンの基礎』の内容に関して講義を行う。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

情報活用試験 3 級の出題区分の『パソコンの基礎』の内容に関して約 8 割の内容が理解出来ている事。

成績評価の基準および評価方法

定期考査の点数（80%）、授業態度（20%）として評価

授業外学習（予習・復習）の指示

授業の都度、指示する。

教科書

なし

参考書

情報処理活用試験 3 級 公式テキスト・問題集 実教出版

実務経験

木村 利津男：IT 企業において、プログラマ、システムエンジニアとして勤務。

備考

科目名 情報検定対策Ⅱ

担当教員	植田 吉祥				
科目の種類	専門	単位区分	選択	単位数	4 単位
授業方法	講義・演習	開講学期	前期	学年	2 年
学科・コース	情報社会学科				

授業概要

経済産業省後援 情報処理活用能力検定 2 級の合格を目指し、知識の習得を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置付け

情報活用検定 2 級の合格の出題範囲に準拠した知識を身に着けさせる。

授業項目

- (1) 情報とは
- (2) コンピュータにおける情報の表現
- (3) 問題を解決するための方法
- (4) 情報を処理するための手順
- (5) コンピュータの種類と機能
- (6) 周辺装置の種類と役割
- (7) インタフェース
- (8) オペレーティングシステムについて
- (9) パソコンの利用と環境設定
- (10) インターネットについて
- (11) インターネットへの接続
- (12) ローカルエリアネットワーク
- (13) LAN の構成要素
- (14) プロトコル
- (15) IP アドレス
- (16) 単位認定試験
- (17) サーバの種類
- (18) IP アドレス
- (19) WWW の仕組みと利用
- (20) 電子メールの仕組みと利用
- (21) インターネットを利用したサービス
- (22) HTML

- (23) 表計算ソフトの使い方
- (24) データベース
- (25) その他のアプリケーションソフト
- (26) 情報社会の特徴と問題点
- (27) 知的財産権と法制度
- (28) 情報モラルと法制度
- (29) コンピュータネットワーク技術の進歩
- (30) 社会の中のコンピュータシステム
- (31) 企業の形態と企業活動
- (32) 単位認定試験

授業の進め方

- 1) 講義を聴講し、ノートにまとめる
- 2) 授業担当者からのアドバイス
- 3) moodle による確認テスト

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

情報処理技術者の基本的な知識を身につける

J 検 2 級の試験の受験

成績評価の基準および評価方法

定期考査の点数（80%）、出席率および授業態度（20%）として評価

授業外学習（予習・復習）の指示

特になし

教科書

特になし、講義資料を配布し、その資料に沿って授業を進める。

参考書

情報検定 情報活用試験 2 級公式テキスト（実教出版）

実務経験

備考

科目名：ITP 資格対策 I

担当教員	木村 利津男				
科目の種類	専門	単位区分	選択	単位数	4
授業方法	講義・演習	開講学期	後期	学年	2
学科・コース	情報社会学科				

授業概要

経済産業省後援 独立行政法人情報処理推進機構の IT パスポート試験を取得するための知識を習得する。試験範囲の「テクノロジ系」「マネジメント系」を中心に学習する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置付け

検定試験の「テクノロジ系」「マネジメント系」の出題範囲に準拠した知識をしっかりと身に付ける

授業項目

- (1) テクノロジ系：基礎理論：基礎理論
- (2) テクノロジ系：基礎理論：アルゴリズムとプログラミング
- (3) テクノロジ系：コンピュータシステム：コンピュータ構成要素
- (4) テクノロジ系：コンピュータシステム：システム構成要素
- (5) テクノロジ系：コンピュータシステム：ソフトウェア
- (6) テクノロジ系：コンピュータシステム：ハードウェア
- (7) テクノロジ系：技術要素：情報デザイン
- (8) テクノロジ系：技術要素：情報メディア
- (9) テクノロジ系：技術要素：データベース
- (10) テクノロジ系：技術要素：ネットワーク
- (11) テクノロジ系：技術要素：セキュリティ
- (12) テクノロジ系：演習問題
- (13) テクノロジ系：演習問題
- (14) テクノロジ系：演習問題
- (15) 評価試験
- (16) 評価試験解説
- (17) マネジメント系：開発技術：システム開発技術
- (18) マネジメント系：開発技術：ソフトウェア開発管理技術
- (19) マネジメント系：プロジェクトマネジメント：プロジェクトマネジメント
- (20) マネジメント系：演習問題
- (21) マネジメント系：演習問題

- (22) マネジメント系：演習問題
- (23) テクノロジ系・マネジメント系：模擬問題
- (27) テクノロジ系・マネジメント系：模擬問題
- (28) テクノロジ系・マネジメント系：模擬問題
- (29) テクノロジ系・マネジメント系：模擬問題
- (30) テクノロジ系・マネジメント系：模擬問題
- (31) 評価試験
- (32) 評価試験解説

授業の進め方

- 1) 講義を聴講し、ノートにまとめ
- 2) 授業担当者からのアドバイス など
- 3) moodle による確認テスト

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

情報処理技術者の基本的な知識を身につける

IT パスポート試験 合格

成績評価の基準および評価方法

定期考査の点数（80%）、出席率および授業態度（20%）として評価

IT パスポート試験の受験を必須とする。

授業外学習（予習・復習）の指示

授業の都度、指示する。

教科書

講義資料を配布し、その資料に沿って授業を進める。

参考書

インプレス出版 簡単合格 IT パスポート教科書

FOM 出版 よくわかるマスター 基本情報技術者試験対策テキスト

実務経験

木村 利津男：IT 企業において、プログラマ、システムエンジニアとして勤務。

備考

科目名：ITP 資格対策Ⅱ

担当教員	木村 利津男				
科目の種類	専門	単位区分	選択	単位数	4
授業方法	講義・演習	開講学期	後期	学年	3
学科・コース	情報社会学科				

授業概要

経済産業省後援 独立行政法人情報処理推進機構の IT パスポート試験を取得するための知識を習得する。試験範囲の「マネジメント系」「ストラテジ系」を中心に学習する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置付け

検定試験の「マネジメント系」「ストラテジ系」の出題範囲に準拠した知識をしっかりと身に付ける

授業項目

- (1) マネジメント系：サービスマネジメント：サービスマネジメント
- (2) マネジメント系：サービスマネジメント：システム監査
- (3) マネジメント系：演習問題
- (4) マネジメント系：演習問題
- (5) マネジメント系：演習問題
- (6) ストラテジ系：企業と法務：企業活動
- (7) ストラテジ系：企業と法務：法務
- (8) ストラテジ系：経営戦略：経営戦略マネジメント
- (9) ストラテジ系：経営戦略：技術戦略マネジメント
- (10) ストラテジ系：経営戦略：ビジネスインダストリ
- (11) ストラテジ系：システム戦略：システム戦略
- (12) ストラテジ系：システム戦略：システム企画
- (13) ストラテジ系：演習問題
- (14) ストラテジ系：演習問題
- (15) ストラテジ系：演習問題
- (16) マネジメント系・ストラテジ系：模擬問題
- (17) マネジメント系・ストラテジ系：模擬問題
- (18) マネジメント系・ストラテジ系：模擬問題
- (19) マネジメント系・ストラテジ系：模擬問題
- (20) マネジメント系・ストラテジ系：模擬問題
- (21) マネジメント系・ストラテジ系：模擬問題

- (22) 全範囲模擬問題
- (23) 全範囲模擬問題
- (24) 全範囲模擬問題
- (25) 全範囲模擬問題
- (26) 全範囲模擬問題
- (27) 弱点克服
- (28) 弱点克服
- (29) 弱点克服
- (30) 弱点克服
- (31) 弱点克服
- (32) 弱点克服

授業の進め方

- 1) 講義を聴講し、ノートにまとめ
- 2) 授業担当者からのアドバイス など
- 3) moodle による確認テスト

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

情報処理技術者の基本的な知識を身につける
IT パスポート試験 合格

成績評価の基準および評価方法

IT パスポート試験の受験を必須とし、IT パスポート試験合格により単位取得とする

授業外学習（予習・復習）の指示

授業の都度、指示する。

教科書

特になし、講義資料を配布し、その資料に沿って授業を進める。

参考書

インプレス出版 簡単合格 IT パスポート教科書

実務経験

木村 利津男：IT 企業において、プログラマ、システムエンジニアとして勤務。

備考

科目名：クリエイティブワークショップ I

担当教員	植田 吉祥				
科目の種類	専門	単位区分	選択	単位数	1
授業方法	実習	開講学期	後期	学年	1
学科・コース	情報社会学科				

授業概要

ノーコードプログラミングアプリ「Springin'（スプリングイン）」を用いて、デジタルコンテンツ制作の基礎となる「企画力」と「創造力」を育成する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置付け

アイデア、企画書、制作、プレゼンテーションまでの一連のプロセスを体験し、ユーザー体験(UX)を意識した表現や仕組みづくりを実践的に学ぶ。

授業項目

- (33) 1～3コマ：導入：Springin'（スプリングイン）とは。 作品体験。基本的な使い方。
- (34) 4～6コマ：チュートリアル実施
- (35) 7～9コマ：自由課題：アイデア、企画
- (36) 10～12コマ：自由課題：制作
- (37) 13～15コマ：プレゼンテーション

授業の進め方

各授業テーマに沿った演習を対面で行う。 学習管理システムの Moodle に教材等を置き、Springin' Classroom で作品を共有する。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

1. 発想し、企画を創出できる。
2. 作品のユーザー体験（UX）を意識した企画書を作成できる。
3. Springin'を用いて、企画に基づいたプロトタイプ作品を制作できる。
4. 企画を説明（プレゼンテーション）できる。

成績評価の基準および評価方法

定期考査の点数（80%）、出席率および授業態度（20%）として評価

授業外学習（予習・復習）の指示

授業の都度、指示する。

教科書

しくみデザイン：「プログラミング教育教材」

参考書

Springin' 使い方：<https://support.springin.org/jp/>

実務経験

備考

科目名：アルゴリズム I

担当教員	木村 利津男				
科目の種類	専門	単位区分	必須	単位数	2
授業方法	講義・演習	開講学期	通年	学年	1
学科・コース	情報社会学科				

授業概要

プログラミングの基礎となるフローチャートおよび擬似言語について学習する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置付け

フローチャートおよび擬似言語について学習し、基本情報技術者試験の科目 A を解けるようになることを目標とする。

授業項目

- (1) アルゴリズム入門
 - ①アルゴリズムとは ②データ型 ③領域の概念 ④三つの基本構造
流れ図の基本パターン
 - ①流れ図（フローチャート）
- (2) 流れ図の基本パターン
 - ②連続型 ③選択型 ④反復型
- (3) 擬似言語の基本パターン
 - ①擬似言語とは ②擬似言語の表記法 ③擬似言語の宣言部分 ④擬似言語の処理部分
 - ⑤練習問題
- (4) 単位認定試験（確認試験）
計算のアルゴリズム
 - ①合計と平均 ②べき乗の計算 ③最大・最小の抽出 ④練習問題
- (5) 手続・関数
 - ①手続・関数とは ②変数のスコープ ③引数と戻り値 ④練習問題
- (6) 配列の操作
 - ①配列 ②1次元配列の操作
- (7) 配列の操作
 - ③1次元配列の挿入・削除 ④2次元配列の操作
 - ⑤練習問題
- (8) 単位認定試験

授業の進め方

- 1) 教科書に沿った講義
- 2) 授業担当者からのアドバイス など
- 3) moodle による確認テスト

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

フローチャートについて学習し、基本情報技術者試験の科目 A 問題を解けるようになることを目標とする。

成績評価の基準および評価方法

定期考査の点数（80%）、出席率および授業態度（20%）として評価

授業外学習（予習・復習）の指示

オンラインコンテンツを補助教材とし、予習・復習を行う。

教科書

情報処理試験合格へのパスポート アルゴリズムとデータ構造（ウィネット）

参考書

特になし

実務経験

木村 利津男：IT 企業において、プログラマ、システムエンジニアとして勤務。

備考

科目名：HTML・CSS

担当教員	嶋田 秀策				
科目の種類	専門	単位区分	選択	単位数	6
授業方法	講義・演習	開講学期	後期	学年	1
学科・コース	情報社会学科				

授業概要

Web 開発環境を整える～HTML と CSS の基本

カリキュラムにおけるこの授業の位置付け

「Web」という技術を学んでいく為の最初に必要となる知識をしっかりと身に付ける

授業項目

- (1) Web サイトの構成について
- (2) HTML の基本
- (3) CSS の基本
- (4) HTML と WWW サーバー
- (5) HTML タグの基本
- (6) CSS ファイルと HTML ファイルの紐づけ
- (7) Web を構成するパーツについて
- (8) アウトラインとセクション
- (9) フレックスレイアウト
- (10) ページ内リンクの設置
- (11) フォームのマークアップ
- (12) フォント、レイアウトを変更する CSS
- (13) `img`, `table`, `form` セクション
- (14) Web 制作の流れ
- (15) Web デザイン概要
- (16) Web デザインの基本

授業の進め方

- 1) 教科書に記載されている文法等の講義
- 2) 講義した文法を使用したパソコンによるプログラミング実習
- 3) 授業担当者からのアドバイス など

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

HTML&CSS の基本が理解出来ている事

成績評価の基準および評価方法

定期考査の点数（80%）、出席率および授業態度（20%）として評価

授業外学習（予習・復習）の指示

授業の都度、指示する。

教科書

株式会社翔泳社 これだけでしっかり基本が身につく HTML / CSS Web デザイン

参考書

なし

実務経験

嶋田 秀策：IT 企業において、プログラマ、システムエンジニアとして勤務。

備考

科目名：AI 実習

担当教員	企業連携科目（企業様担当）				
科目の種類	専門	単位区分	選択	単位数	1
授業方法	実習	開講学期	集中	学年	3
学科・コース	情報社会学科				

授業概要

Python による AI プログラムでビッグデータを扱うことで、その処理方法について学習する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置付け

AI は近年の技術トレンドであり、企業でどのように理解・活用がされているかについて学習する。

授業項目

(1) 実習内容の説明。（6 h）

Google colabatory を用いて AI のプログラムを作成する演習の実施。

画像分類

(2) Google colabatory を用いて AI のプログラムを作成する演習の実施。（6 h）

- ・画像分類 2
- ・Web スクレイピング
- ・動画中の車両認識

(3) Google colabatory を用いて AI のプログラムを作成する演習の実施。（6 h）

- ・テキスト分析
- ・IMDB 映画レビュー感情分類
- ・音声認識
- ・音声分割
- ・画像内のテキスト抽出
- ・2つのイメージを合成

(4) Google colabatory を用いて AI のプログラムを作成する演習の実施。（6 h）

- ・翻訳
- ・強化学習

AI を利用するシステムの説明

- ・チャットボット
- ・AUTOML
- ・パーソナライズ

(5) Google colabatory を用いて AI のプログラムを作成する演習の実施。（6 h）

- ・アヤメの分類

- ・可視化

API の説明

AI についてのまとめ

授業の進め方

- 1) 講義を聴講しデータ処理の方法について学習する
- 2) データの取得を Google Colaboratory の操作方法と合わせて学習する
- 3) 実際にデータ処理を行った上で、そのデータの概略をグラフを通じて理解する。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

AI についての概要を理解する。

AI を処理する言語 Python の活用方法について理解する

成績評価の基準および評価方法

定期考査の点数（80%）、出席率および授業態度（20%）として評価

授業外学習（予習・復習）の指示

授業の都度、指示する。

教科書

なし

参考書

なし

実務経験

備考

科目名：Rapsodo 概論

担当教員	植田 吉祥				
科目の種類	専門	単位区分	選択	単位数	2 単位
授業方法	講義・演習	開講学期	集中	学年	1 年
学科・コース	情報社会学科				

授業概要

硬式野球部のピッチャーの投球計測システム Rapsodo の概要について学習する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置付け

投球の計測を行うシステムの基本的な設置から計測、データの取得。その分析の基礎を学ぶ。併せて Excel による簡易的な分析の準備について学ぶ。

授業項目

(34) Rapsodo の概要について

Rapsodo 導入ガイドにより、導入することで可能になる全体像を理解する。

https://www.youtube.com/playlist?list=PL_RucCYJzEWy47dpltVALdu1Bf6f3tEo_

(35) Rapsodo の導入前に知っておきたい 9 つのポイント（学習ポイント）

Rapsodo を学習するポイントについて学習する

機材の全体構成、取得できるデータ、全体の流れについて理解する。

<https://note-rapsodojp.rapsodo.com/n/n2777d60ce412>

(36) Rapsodo のアカウント登録について

Rapsodo クラウドの使い方と、選手登録について学ぶ。

<https://note-rapsodojp.rapsodo.com/n/n63f24b32b8b8>

(37) Rapsodo の設置方法について学習する。

Rapsodo 簡単セッティングガイドを使用して機材のセッティング方法について学習する。

<https://note-rapsodojp.rapsodo.com/n/n16f51503b47c>

(38) Rapsodo Diamond アプリ（iPad）についての操作方法を学ぶ。

<https://note-rapsodojp.rapsodo.com/n/n63f24b32b8b8>

(39) Rapsodo 計測データ解説「球速」

Rapsodo の球速計測の機能と、計測されたデータの読み方について学ぶ。

球速の分析について学習する。

平均球速と最高球速、セッション内の球速の推移、コースごとの球速の確認について学ぶ

<https://note->

[rapsodojp.rapsodo.com/n/n8ad1ed6f0109?magazine_key=m81b738cd0644#0c95e2ff-6f23-478e-abde-87801ed3ad24](https://note-rapsodojp.rapsodo.com/n/n8ad1ed6f0109?magazine_key=m81b738cd0644#0c95e2ff-6f23-478e-abde-87801ed3ad24)

(40) Rapsodo 計測データ解説「回転数」

Rapsodo の回転数計測機能とその数値について学ぶ。

https://note-rapsodojp.rapsodo.com/n/n1504208c3d64?magazine_key=m81b738cd0644

(41) Rapsodo 計測データ解説「回転軸・回転効率」

Rapsodo の回転軸・回転効率とその数値について学ぶ。

https://note-rapsodojp.rapsodo.com/n/n8deca7a5f587?magazine_key=m81b738cd0644

(42) Rapsodo 計測データ解説「変化量」

Rapsodo の変化量について学ぶ。

https://note-rapsodojp.rapsodo.com/n/n689903d4af78?magazine_key=m81b738cd0644

(43) Rapsodo クラウドからデータのアクセスと Excel の読み込みについて

<https://note-rapsodojp.rapsodo.com/n/n32d2a1452d1c>

(44) Rapsodo データの Excel によるグラフ処理の基礎

(45) Rapsodo のデータ活用について

種々の利用ビデオを見て活用方法を学ぶ。

(46) 同上（２）

(47) Rapsodo のコアユーザの活用体験

<https://note-rapsodojp.rapsodo.com/m/m5303b60bfdb1>

(48) 授業のまとめ

(49) 単位認定試験

※以下書き直し分

全体について

1. 授業の位置づけ
2. PITCHING2.0_User_manual_20230608.pdf ※全体概要
3. ラプソードかんたんセッティングガイド.pdf ※機材設置の方法
4. ラプソードくいくスタートガイド.pdf ※全体のまとめ

iPad アプリの使い方

5. DiamondAPP_20211210.pdf
6. DiamondAPP_Pitching__20211209.pdf ※計測時の扱い方

パラメータの解説

7. Rapsodo データガイド(入門編).pdf ※基本的なデータ圧縮版
8. ラプソード計測データ解説①「球速」.pdf(Rapsodo 計測データ解説.txt)
9. ラプソード計測データ解説②「回転数」.pdf(Rapsodo 計測データ解説.txt)
10. ラプソード計測データ解説③「回転軸・回転効率」.pdf(Rapsodo 計測データ解説.txt)
11. ラプソード計測データ解説④「変化量」.pdf(Rapsodo 計測データ解説.txt)

クラウドの機能

12. Rapsodo_cloud2.1_Pitching_20210913.pdf ※クラウドのマニュアル
13. Rapsodo_CSV__Rev0.pdf ※CSV の抽出法
14. Rapsodo_csv データガイド_Rev0_中級編.pdf ※Excel による加工の基礎

15. 全体のまとめ

16. 単位認定試験

授業の進め方

授業時間内には講義と演習を行う。授業の中での計測と分析を進め、単位認定試験にて評価を行う。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

Rapsodo の設置から計測までの手順を学ぶ。次へのステップとして、作成されるデータを Excel に読み込む家庭までを理解する。

成績評価の基準および評価方法

定期考査の点数（80%）、授業態度（20%）として評価

授業外学習（予習・復習）の指示

なし

教科書

なし

参考書

なし

実務経験

備考

科目名：Rapsodo データ分析論

担当教員	植田 吉祥				
科目の種類	専門	単位区分	選択	単位数	4 単位
授業方法	講義・演習	開講学期	通年	学年	2 年
学科・コース	情報社会学科				

授業概要

Rapsodo 測定データの分析に関する研究結果や知見を習得する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置付け

情報社会学科のスポーツ教育学演習で行われる野球のピッチングに絞り、その測定データを統計的に九つに分類することにより、分析を行う。

授業項目

(50) オリエンテーション、授業概要について

データ野球の現状について

(51) データ分析で何が分かるか

ラブソードでできること。ボールの変化：有効回転数の影響。ボールの回転数の改善方法

(52) データが示す投手の特徴～伸び系

投手の特徴と投げ方の特徴。相性の良い変化球。

(53) データが示す投手の特徴～伸びシュート系

投手の特徴と投げ方の特徴。相性の良い変化球。

(54) データが示す投手の特徴～伸びスカラ系

投手の特徴と投げ方の特徴。相性の良い変化球。

(55) データが示す投手の特徴～標準スラ系

投手の特徴と投げ方の特徴。相性の良い変化球。

(56) データが示す投手の特徴～標準形

投手の特徴と投げ方の特徴。相性の良い変化球。

(57) 単位認定試験

(58) データが示す投手の特徴～標準シュート系

投手の特徴と投げ方の特徴。相性の良い変化球。

(59) データが示す投手の特徴～真っスラ系

投手の特徴と投げ方の特徴。相性の良い変化球。

(60) データが示す投手の特徴～垂れ系

投手の特徴と投げ方の特徴。相性の良い変化球。

- (61) データが示す投手の特徴～垂れシュート系
投手の特徴と投げ方の特徴。相性の良い変化球。
- (62) データが示す投手の特徴～垂れスラ系
投手の特徴と投げ方の特徴。相性の良い変化球。
- (63) 復習 小テスト問題演習
- (64) 単位認定試験
- (65) 復習
- (66) 球団投手タイプリスト、球質完コピ
- (67) データ活用の最新事例～①
投球フォームという不確定要素を確定要素に帰る
投球におけるエネルギーの流れについての考察
ひじの故障リスクについて
- (68) データ活用の最新事例～②
ソフトバンクの育成を支える計測チーム
- (69) データ活用の最新事例～③
アマ最強チーム NEOS の「2つのデータ」について
- (70) データ活用の最新事例～④
計測機器は一人1つの時代に 名古屋名電高校のケース
- (71) データ活用の最新事例～⑤
計測で伸び代を最大化する立花学園の事例
- (72) まとめ・復習
- (73) 単位認定試験
- (74) データ活用の最新事例～⑥
計測は力になるラブソード・ジャパン
- (75) データ活用の最新事例～⑦
ストレートを捨てた 156 キロ投手の事例
- (76) 事例解析 インターネットの任意の選手のデータを取得して解析
- (77) 事例解析 インターネットの任意の選手のデータを取得して解析 (2)
- (78) 事例解析 インターネットの任意の選手のデータを取得して解析 (3)
- (79) 事例解析 インターネットの任意の選手のデータを取得して解析 (4)
- (80) 復習
- (81) 単位認定試験

授業の進め方

授業時間内には講義を行う。毎時、授業終了時に小テストを課す。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

定期考査の点数（80%）、授業態度（20%）として評価

授業外学習（予習・復習）の指示

なし

教科書

なし

参考書

球速の正体～最新のデータ分析で投手の吸湿を解き明かす～,林卓史,東洋館出版社,2023

実務経験

備考

科目名 Excel 応用

担当教員	植田 吉祥				
科目の種類	専門	単位区分	選択	単位数	2 単位
授業方法	講義・演習	開講学期	後期	学年	2 年
学科・コース	情報社会学科				

授業概要

Excel の基礎的な範囲外について演習を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置付け

表計算、MOS 試験対策 (Excel) を習得した学生の為に、より高度な Excel のスキルの習得を行う。
目安は、MOS Expert もしくは、データサイエンスに必要な技術習得を目標にする。

授業項目

- (1) ブックの共同編集の為の管理について
- (2) 言語オプションの使用と設定方法
- (3) 既存のデータを活用したデータの入力方法、セルにデータの表示形式や入力規則を定期ようする
- (4) 詳細な条件付き書式やフィルターの適用について
- (5) 関数の論理演算について
- (6) 関数を使用したデータの検索について
- (7) 復習
- (8) 単位認定試験
- (9) 高度な日付の関数と時刻の関数を利用する
- (10) データ分析の行い方
- (11) データ分析の行い方 (2)
- (12) 数式のトラブルシューティング
- (13) 簡単なマクロを作成する
- (14) 高度な機能を使用したグラフを作成する。
- (15) ピボットテーブルの作成と変更
- (16) 単位認定試験

授業の進め方

- 1) 講義を聴講し、アプリの操作を行い、技術を学ぶ
- 2) moodle による確認テスト

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

MOS Expert もしくはデータサイエンスにおけるツールが使えるようになること。

成績評価の基準および評価方法

定期考査の点数（80%）、出席率および授業態度（20%）として評価

授業外学習（予習・復習）の指示

特になし

教科書

特になし、講義資料を配布し、その資料に沿って授業を進める。

参考書

実務経験

備考

科目名：Excel 分析ツール

担当教員	植田 吉祥				
科目の種類	専門	単位区分	選択	単位数	2 単位
授業方法	講義・演習	開講学期	通年	学年	2 年
学科・コース	情報社会学科				

授業概要

Excel 分析ツールを活用したデータ分析を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置付け

Rapsodo を使用して、ピッチングデータなどの集計を行った上で、各種データの相関を見るための Excel 分析ツールについて理解する。

授業項目

(82) オリエンテーション、授業概要について

(83) 元データの加工について

空欄などの欠損データについての扱いを学ぶ

(84) 基本的なデータの理解について

平均、分散、などの Excel の基本的な関数で把握できる数を関数にて求める

(85) 散布図と相関について

散布図の作成方法について学習する。また、相関係数がグラフと一致することの意味を学ぶ

(86) ヒストグラムについて

ヒストグラムで数量の把握をする方法について学習する

(87) 箱ひげ図について

データの集計と読み取り方について学習する

(88) まとめ

(89) 単位認定試験

(90) パレート図の作成について学習する

(91) ローレンツ曲線の作図と統計値の確認方法について学習する

(92) レーダーチャートについての図のデータ分布について学習する

(93) バブルチャートの作成と、データ整理について学習する

(94) 推測統計、統計的推定と統計的仮説検定について学習する

(95) Excel 分析ツールのインストール方法、ソルバーの概略について

(96) まとめ

(97) 単位認定試験

- (98) 相関分析について
- (99) 主成分分析について
- (100) 因子分析について
- (101) 回帰分析について
- (102) 時系列データ分析
- (103) 時系列データ分析
- (104) まとめ
- (105) 単位認定試験
- (106) セグメンテーション
- (107) クラスタ分析
- (108) デシル分析
- (109) RFM 分析
- (110) ABC 分析
- (111) 相関ルール分析
- (112) まとめ
- (113) 単位認定試験

授業の進め方

授業時間内には講義を行う。毎時、授業終了時に小テストを課す。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

定期考査の点数（80%）、授業態度（20%）として評価

授業外学習（予習・復習）の指示

なし

教科書

なし

参考書

https://www.stat.go.jp/naruhodo/11_tokusei/kentei.html

実務経験

備考

科目名：データアナリティクス手法

担当教員	植田 吉祥				
科目の種類	専門	単位区分	必須	単位数	3 単位
授業方法	講義・演習	開講学期	前期	学年	2 年
学科・コース	情報社会学科				

授業概要

データ分析手法（主成分分析、回帰分析など）を理解し、活用する力を養う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置付け

Rapsodo をはじめ様々な機会にデータの収集を行っている。ここでは、データの分析手法についての方法について Excel の統計ツールなどを使用して学習を行う。

授業項目

- (1) オリエンテーション、授業概要について
- (2) Excel ツールの使い方と分析ツールの設定について
- (3) データの事前準備
- (4) 相関係数行列について
- (5) 主成分、固有値の意味について
- (6) 主成分、固有値を実際に Excel で求める演習
- (7) 第 1 主成分からの求め方、グラフ上での意味
- (8) 単位認定試験
- (9) 回帰分析について
- (10) Excel における回帰分析ツールの呼び出し方
- (11) 単回帰分析・重回帰分析の呼び出し方
- (12) 外敵妥当性について
- (13) 演習 単回帰分析の例題
- (14) 演習 重回帰分析の例題
- (15) まとめ
- (16) 単位認定試験
- (17) 投球データの分布に基づく回帰分析
- (18) 投球データの分布に基づく回帰分析（2）
- (19) 投球データの分布に基づく回帰分析（3）
- (20) 野球競技における各塁打の得点分析（重回帰分析の例）
- (21) 野球競技における各塁打の得点分析（重回帰分析の例）（2）

- (22) 野球競技における各塁打の得点分析（重回帰分析の例）（3）
- (23) まとめ
- (24) 単位認定試験

授業の進め方

授業時間内には講義を行う。毎時、授業終了時に小テストを課す。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

定期考査の点数（80%）、授業態度（20%）として評価

授業外学習（予習・復習）の指示

なし

教科書

なし

参考書

なし

実務経験

備考

科目名 セイバーメトリクス基礎 I

担当教員	服部 文夫				
科目の種類	専門	単位区分	選択	単位数	1 単位
授業方法	講義・演習	開講学期	後期	学年	2 年
学科・コース	情報社会学科				

授業概要

セイバーメトリクスを学ぶことで、選手の真の貢献度や戦術の有効性を「客観的かつ統計的に数値化」できるようになる。これらの統計的数値指標は、データサイエンスで分析を行う上でも重要になるため、様々なパラメータについて理解を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置付け

2 年時で学ぶデータ処理の科目（Excel 応用、Excel データ分析）の技術に入力されるデータが実際の球場での一つ一つの行動から得られ、その得られたデータの意味がどのように影響を与えるのかを理解する。

授業項目

- (1) 授業の概要について
- (2) 大谷投手の事例から、BABIP, 奪三振、与四球、被本塁打について
- (3) FIP、球速、トラッキングデータ、軽微な指標、オープナーについて
- (4) 大谷翔平の打撃について、出塁率、超打率、OPS、歴代最強打者、打球速度と角度
- (5) パークファクター、得点圏打率、バント、打順について
- (6) 守備編：失策、UZR、ゴールデングラブ賞、年齢曲線、捕手の評価。守備シフトについて
- (7) 走塁編：盗塁、盗塁の評価、スプリントスピード
- (8) 単位認定試験

授業の進め方

- 4) 演習問題を行う。
- 5) 不正解の問題に対して、解答・解説を行い、解き方を示す。
- 6) 問題の習熟の為に、再度問題を解く。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

定期考査の点数（80%）、出席率および授業態度（20%）として評価

授業外学習（予習・復習）の指示

特になし

教科書

なし

参考書

プロ野球・MLB が 10 倍楽しくなる！よくわかるセイバーメトリクス（玄光社）

実務経験

備考

科目名 セイバーメトリクス基礎Ⅱ

担当教員	服部 文夫				
科目の種類	一般	単位区分	選択	単位数	1 単位
授業方法	講義・演習	開講学期	後期	学年	3 年
学科・コース	情報社会学科				

授業概要

セイバーメトリクスの指標を学ぶことで、選手の真の貢献度や戦術の有効性を「客観的かつ統計的に数値化」できるようになる。これらの統計量について、深く学習する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置付け

セイバーメトリクス基礎Ⅰにて、基本的な統計量について学習をしておくこと。

授業項目

- (9) 伝統的指標の限界と新しい評価基準
打率、打点、勝利数などの伝統的指標が抱える問題点
なぜ客観的評価が必要なのか
- (10) 打撃指標の基本（OPS と出塁率）
出塁率（OBP）と長打率（SLG）の算出方法
攻撃力を総合的に測る指標 OPS の理解
- (11) 発展的な打撃指標（wOBA と wRC+）
安打の価値を重み付けする wOBA の算出
球場補正を加味した wRC+ の概念
- (12) 走塁・守備指標の基礎
得点期待値と走塁指標（BsR）
守備指標の変遷（UZR から Defensive Runs Saved へ）
- (13) 投手評価指標の革新
防御率（ERA）と FIP（Fielding Independent Pitching）の違い
投手の真の能力を測るためのスクリーニング
- (14) 選手総合評価指標（WAR）の仕組み
攻撃・走塁・守備・投球を総合し、選手がチームにどれだけ貢献したかを数値化する **WAR** の概念 [\[1\]](#)
- (15) データサイエンスとしての野球（統計学の基礎）
分布、平均、中央値の確認
ヒストグラムを用いたプロ野球データの視覚化

(16) 単位認定試験

授業の進め方

- 7) 演習問題を行う。
- 8) 不正解の問題に対して、解答・解説を行い、解き方を示す。
- 9) 問題の習熟の為に、再度問題を解く。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

成績評価の基準および評価方法

定期考査の点数（80%）、出席率および授業態度（20%）として評価

授業外学習（予習・復習）の指示

特になし

教科書

なし

参考書

プロ野球・MLB が 10 倍楽しくなる！よくわかるセイバーメトリクス（玄光社）

実務経験

備考

科目名 データサイエンス演習

担当教員	植田 吉祥				
科目の種類	専門	単位区分	必須	単位数	8 単位
授業方法	講義・演習	開講学期	前期	学年	3 年
学科・コース	情報社会学科				

授業概要

学習したプログラミング言語、データサイエンス手法などを利用してデータ分析を実施するための必要なスキルを習得する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置付け

データサイエンス手法やプログラミング言語を使用して課題となるデータ分析の実施を行う。

授業項目

※下記は、1 週間ごとの進捗の目安。

- (1) 授業概要についての解説
実習ソフトウェア（Google Colaboratory, Google Slide）についての説明
課題の提出方法についての説明
- (2) データ分析手法についての講義・演習（1）データの前処理①
- (3) データ分析手法についての講義・演習（2）データの前処理②
- (4) データ分析手法についての講義・演習（3）機械学習の手法①
- (5) データ分析手法についての講義・演習（4）機械学習の手法②
- (6) データ分析手法についての講義・演習（5）データ分析結果の確認方法
- (7) 課題の内容の説明、解説
データ分析手法についての演習（1）
- (8) データ分析手法についての演習（2）
- (9) データ分析手法についての演習（3）
- (10) プレゼンテーションの作成について
データ分析した結果のまとめ方について学習する。
- (11) 単位認定課題の作成（1）
- (12) 単位認定課題の作成（2）
- (13) 単位認定課題の作成（3）
- (14) 単位認定課題の提出

授業の進め方

授業はゼミ形式で行う。全体の授業を数回に区切り、学生にテーマを与え、ディスカッションや考察・調査を行い、制作過程や制作方法を提示してデータ分析の方法、プレゼンテーションの作成方法について学習する。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

3年間の総括としてデータサイエンス実習を行うにあたり必要な技術を習得する。

成績評価の基準および評価方法

制作物の提出状況（50%）、定期的に行われるテストの評価（30%）、出席率および授業態度（20%）として評価

教科書

なし

参考書

実務経験

備考

科目名 データサイエンス実習

担当教員	植田 吉祥				
科目の種類	専門	単位区分	選択	単位数	6 単位
授業方法	実験・実習	開講学期	後期	学年	3 年
学科・コース	情報社会学科				

授業概要

3 年間の学習の成果として、学習したプログラミング言語、データサイエンス手法などを利用してデータ分析を実施し、卒業課題としてのプレゼンテーションの制作を行う。

カリキュラムにおけるこの授業の位置付け

1, 2 年時の全科目、3 年時の前期科目で習得した内容を前提として、プレゼンテーションの制作を行う。

授業項目

※下記は、1 週間ごとの進捗の目安。

(15) 授業概要について・作成する WEB ページの概要についてのまとめ

授業の概要・単位認定の基準についての説明を行う。

3 年時後期で制作するプレゼンテーションについて学生個人のテーマの設定を行う。

テーマ設定後には、発表形式でテーマのレビューを行う。

(16) 課題作成に必要なデータの取得

(17) 取得したデータの分析・前処理 (1)

取得したデータを用いて分析が可能か調査

(18) 取得したデータの分析・前処理 (2)

上記の続き

(19) データ分析・機械学習による処理 (1)

取得したデータを用いて機械学習による分析を行う

(20) データ分析・機械学習による処理 (2)

上記の続き

(21) 中間発表

(22) データ分析および分析結果のまとめ (1)

(23) データ分析および分析結果のまとめ (2)

(24) プレゼンテーションの作成 (1)

(25) プレゼンテーションの作成 (2)

(26)制作物のまとめ（１）

(27)制作物のまとめ（２）

(28)制作物発表会

授業の進め方

演習を主体として、プレゼンテーションの作成を行う。作成した課題は WEB ページのサイトを通じて公開する。

授業が長期間の制作となるために、全体を通じて 3 回のチェックポイントとして発表を行う。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

3 年間の総括として、学習した内容をすべて生かしたプレゼンテーションの作成を行う。

成績評価の基準および評価方法

製作物の難易度（20%）、製作物の完成度（60%）、出席率および授業態度（20%）として評価

教科書

なし

参考書

実務経験

備考

科目名：JavaScript

担当教員	嶋田 秀策				
科目の種類	専門	単位区分	選択	単位数	4
授業方法	講義・演習	開講学期	後期	学年	1
学科・コース	情報社会学科				

授業概要

JavaScript プログラミングができる基礎的な知識及び技術を習得する。

カリキュラムにおけるこの授業の位置付け

HTML・CSS についての知識を習得したのちに、プログラミングにより HTML ドキュメントを操作する方法について学習する。

バックエンドシステム開発を仕事にする上で知っておきたい基本の知識を学ぶ。

授業項目

(1) JavaScript の記述ルール、イベントハンドラについて

- ・JavaScript の概要
- ・JavaScript を記述する場所
- ・JavaScript の記述ルール

イベントハンドラ

- ・イベントハンドラとは？
- ・クリック時に JavaScript を実行する
- ・マウスの移動時に JavaScript を実行
- ・ページが読み込まれた直後に JavaScript を実行
- ・その他のイベントハンドラ
- ・画面をクリックするとメッセージが表示される

(2) コンソールの使い方

- ・コンソールとは？
- ・コンソールの表示
- ・コンソールに文字を表示
- ・エラーメッセージの確認
- ・コンソールに JavaScript を記述して実行
- ・画像をクリックするとコンソールにメッセージが表示される

(3) 関数の基本

- ・関数とは？
- ・関数の作成方法
- ・関数名に指定できない文字
- ・イベントハンドラから関数を呼び出す
- ・確認課題

(4) 変数の利用

- ・変数の宣言
- ・変数に数値を代入
- ・変数に文字を代入
- ・変数の表示
- ・ボタンをクリックすると問題の解答をコンソールに表示する

(5) 変数の演算

- ・演算子の記述
- ・プログラムならではの記述方法
- ・インクリメントとデクリメント
- ・文字の足し算
- ・変数に文字を追加して表示
- ・2つの変数に格納されている数値を足し算、引き算、掛け算、割り算した計算結果をコンソールに表示する

(6) 配列の利用

- ・配列とは？
- ・配列の宣言とデータの代入
- ・配列の読み込み
- ・配列の長さ
- ・配列を2つ用意し、ボタンのクリックにより $\text{SNS} = \text{配列 1}[0] * \text{配列 2}[0]$ 、 $\text{配列 1}[1] * \text{配列 2}[1]$ 、 $\text{配列 1}[2] * \text{配列 2}[2]$ の計算結果をコンソールに表示する

(7) 関数の引数

- ・関数の引数とは？
- ・引数の指定方法
- ・引数を利用して関数を汎用化
- ・複数の引数を指定する場合
- ・配列の利用（確認課題）で作成した内容を1つの関数で処理できるようにする

(8) 要素の取得と内容の変更

- ・要素の取得
- ・要素内の文字の変更
- ・要素内の HTML を書き換える

- ・ボタンをクリックすると（予約受付中）の文字を（予約済み）に変更する

(9) 複数の要素の取得

- ・セレクトを使った要素の取得
- ・取得する要素を絞り込む方法
- ・要素内の文字の変更
- ・ボタンをクリックすると「国名」を「国旗」に変更する

(10) 要素の追加と削除

- ・要素の追加
- ・要素を追加するときの注意点
- ・要素の削除
- ・ボタンをクリックすると、div 要素の中の写真を一覧表示する

(11) 繰り返し処理－1

- ・繰り返し処理とは？
- ・for 文の記述方法
- ・比較演算子
- ・繰り返し処理の例（1）
- ・繰り返し処理の例（2）
- ・要素の追加と削除（確認課題）の THML ファイルのプログラムで関数コールの記述を 1 回で済むように変更する

(12) 繰り返し処理－2

- ・2重ループの繰り返し処理
- ・多重ループを使った表の作成
- ・入場料金一覧表を作成する

(13) 条件分岐－1

- ・条件分岐とは？
- ・if 文の記述方法
- ・if～else で処理を2つに分岐
- ・if～else 文のサンプルプログラム
- ・確認課題：ボタンをクリックした回数に応じて、実行する処理を分岐させる

(14) 条件分岐－2

- ・else if で処理を3つ以上に分岐
- ・else if のサンプルプログラム
- ・論理演算子
- ・switch 文で処理を分岐（確認課題）
- ・条件分岐－1（確認課題）で作成したプログラムの分岐部分を switch 文へ変更する

(15) break と continue

- ・break の活用方法
- ・continue の活用方法

- ・ `while` 文を使った繰り返し処理
- ・ 課題：変数 `x` が 1、2、3・・・と変化する `for` 文を使って、三次方程式の解を求める
- ・ 課題：`break` と `continue`（確認課題）を `while` 文で作成する

(16) 単位認定

- ・ 課題提出にて実施する

授業の進め方

授業時間内にパソコンで実習を行う。毎時、小規模なプログラミング作成を課す。

授業の達成目標（学習・教育到達目標との関連）

授業項目に記した内容の JavaScript プログラミングができるようになる事。

成績評価の基準および評価方法

定期考査の点数（80%）、授業態度（20%）として評価

授業外学習（予習・復習）の指示

授業の都度、指示する。

教科書

確かな力が身につく JavaScript「超」入門

参考書

実務経験

嶋田 秀策：IT 企業において、プログラマ、システムエンジニアとして勤務。

備考
